



▲献穀事業で米の栽培と式典が行われる道の駅「竜北」裏側の圃場

さらに、準備を進めてきました献穀事業に取り組むこととし、この事業を機に特産であるもち米をはじめ、氷川町の農産物のPRとブランドの向上を目指します。

また、継続事業としまして、経営所得安定対策事業、経営体育成支援事業、氷川町販売戦略基本計画に基づく農産物販売戦略強化対策、いぐさ豊表生産体制強化緊急対策事業、日本産ブランド輸出促進事業をはじめ、農地の利活用調整、利活用状況調査などの農業委員会の機能充実を支援する農地制度実施円滑化事業に取り組むこととしています。

農業経営の安定化と農家負担の軽減を目的とした農業収入安定化事業について、共済掛け金の助成率を45％に据え置いたところでございます。

農業基盤整備事業として、

繰越分の地区排水路改修事業、暗渠排水事業、客土事業をはじめ、国営造成施設管理体制整備促進事業および農地・水保全管理支払交付金事業などを氷川町土地改良区と連携して実施します。

新規事業として、網道地区の幹線排水路浚渫工事、柿地区ため池取水口改修工事および農道有佐1号線舗装工事を実施します。

長年の懸案事項であります竜北地区の排水対策につきましては、竜北地区排水対策検討委員会で検討中でありますが、年度内に方針を決定し、事業化に向けた取り組みを始めたいと考えています。

地籍調査事業も年度計画に基づき、大野地区の一筆地調査を実施します。

商工業振興策としましては、継続事業として住宅リフォーム促進事業に取り組み、中小建築業者の支援と町内商工業の振興を図ります。

ネット通販販路拡大事業、地域資源活用特産品開発・販路拡大事業を販売戦略商工会補助金として位置づけ、経営革新等推進特別事業も取り組み企業数を倍増し、雇用の確保、商工会活動の支援と商工業者の経営革新を支援してまいります。

八火図書館の整備については、既存の宮原振興局新館の改修工事と本館の解体工事を施工することともに、新たに建設する八火図書館の実施設計を策定いたします。

総合型地域スポーツクラブ「ひかわスポーツクラブ」が発足して2年が経過しましたが、組織の強化と会員の拡大を目指して、取り組み種目を2種目増やし、12種目を実施し、町体育協会との連携を図りながら、社会体育と文化の振興に向けた支援を行ってまいります。

安全で快適な生活環境のまちづくり

地球環境への負荷軽減による自然と共生するまちづくりを目指して、太陽光発電施設等の費用助成を行う住宅用新エネルギー等導入促進事業を継続して取り組みます。

生ごみ減量化を目指した電気式生ごみ処理機購入助成は、継続して実施することとし、積極的に普及促進を図ります。

八代市が建設予定の新たな環境センターでの広域処理の問題につきましては、現在、氷川町、八代市、八代生活環境事務組合の3者による協議を実施しておりますが、さらに協議を重ねてまいります。

町単独のプレミアム付き商品券の発行につきましても継続して実施し、町内における購買力の向上を目指してまいります。

宮原地区中心市街地再整備につきましては、民間活力を最大限に活用するとともに、必要な環境整備を図ってまいります。企業誘致活動につきましては、県企業立地課と連携を図りながら、その実現に向け、積極的に活動してまいります。

立神峡公園、まちづくり酒屋、竜北公園については、氷川ツーリズム事業の一つの資源として位置づけ、相互に連携を取りながら、その活用を図るとともに、新規事業として氷川町フットパスづくり事業に取り組み、新たな観光資源の創出を目指します。

梨マラソン大会やヘラブナ釣り大会など、各種イベントにつきましても参加者を増やす工夫をしつつ開催し、地域経済の活性化を図ります。

安心して暮らせる福祉のまちづくり

生活の安定は健康づくりという視点から疾病の早期発見、早期治療を促進し、町民の皆さまの健康増進と医療費の抑制を図るため、健診事業をさらに強化推進します。

防災、防犯対策といたしましては、県が発表した地震・津波被害想定に基づき、氷川町地域防災計画の見直しを進めるとともに、災害用備蓄品が皆無の状況でありますので、学校給食調理場東側にあります体育倉庫を解体し、新たに備蓄倉庫を建設すべく計画を進めていきます。

消防団及び自主防災組織を核とした地域防災体制の充実と地域ぐるみで見守る防犯体制の確立を図ります。特に、消防団につきましては、団員の確保を図るとともに、組織再編の是非についても検討を併せて行います。

下水道事業も計画に沿って促進し、宮原処理区の八代北部流域下水道への編入についても本格的に検討してまいります。

集落内の道路および排水路につきましては、氷川町道路整備基本計画と地区からの要望との整合性を図りながら、社会資本整備総合交付金等の国・県の事業を積極的に活用しつつ、優先順位を付けて整備を行うこととしています。

町が管理する既設の橋梁については、橋梁の長寿命化修繕計画に基づき、来年度以降の整備に向けた準備を進めてまいります。

町内の住宅建築物の安全性

40歳・50歳・60歳を対象とし、人間ドック受診費用、40歳から60歳の5歳刻みの人を対象に、乳がん検診および大腸がん検診と20歳から40歳の5歳刻みの女性を対象とした子宮頸がん検診の無料化については、対象者数を増員して実施いたします。

少子化および定住促進対策として、継続して医療費の無料化を中学3年生までを対象年齢とし、助成の方法をこれまでの申請償還払いから医療機関の窓口での現物給付に変更し、利便性と効率性の向上を図ります。

インフルエンザ予防接種についても1歳から15歳を対象に助成を継続して実施します。

また、子育て世代の母親の精神的・身体的負担を軽減するため、産前産後ホームヘルプ事業を継続して実施し、支援してまいります。

さらに、子ども・子育て支援計画策定に向けた二ス調査を実施します。

高齢者及び障害者福祉対策といたしましては、いきいきサロン事業、食の自立支援事業、高齢者および障がい者住宅改造成成事業の継続事業をはじめ、新規事業として障害者自動車運転免許取得・改造成成事業および難聴児補聴器購入費

助成事業に取り組むこととしています。

特に、いきいきサロン事業につきましては、町内全地区での実施を目指した3か年計画の最終年度を迎えますので、全地区の立ち上げを目標として積極的に推進してまいります。

役場本庁舎、文化センター、健康センターの障がい者用駐車場に屋根付きカーポートを設置し、雨天時などの利便性の向上を図ります。

昨年度策定しました氷川町国民健康保険財政健全化計画に基づき、国民健康保険事業の円滑な運営に努めてまいります。

また、町社会福祉協議会の地域福祉計画および組織改革計画の見直し作業に取り組んでおりますので、その計画を踏まえ町社会福祉協議会との連携を図り、地域で支える福祉の環境づくりを進めてまいります。

さらに、医療費の抑制と疾病予防のために、住民健診の検診率の向上と管理栄養士を活用し、保健予防活動を充実強化してまいります。

人をはぐくむ教育の振興

児童生徒の安全な教育施設整備のための校舎などの耐震補強・改修工事を計画的に実施しておりますが、本年度は、

堅実な行財政運営を行うためにも、行財政改革に努めてまいります。

行政改革プランの進捗状況を確認し、漸次必要な見直しを図りつつ、その計画に基づいた改革を確実に実践してまいりたいと思います。

自主財源を確保することは行政を運営する上で、大変重要でありますので、税の滞納整理および収納の効率化を図るため、滞納整理支援システムを導入し、収納率の向上を目指します。

さらに効率のよい機能的な行政組織とするため、役場機構の改革と職員の能力開発にも尽力してまいりたいと考えております。

大空町との友好関係も大切にしてまいりたいと考えております。人材交流および物産の相互交流を活発にし、友好の絆を深めてまいります。

以上、5つのまちづくり戦略を平成25年度の町政運営の基本方針として、安心して暮らせ、幸せを実感できる氷川町の創造を目指して、全身全霊を傾注して、危機感と緊張感を持って取り組んでまいりますので、取り組んでまいる所存でございますので、町民の皆さまのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



▲八火図書館との複合化に伴い解体・改造工事が行われる宮原振興局